

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立舞鶴支援学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1実践テーマ	【 I 】
2実施対象者	小学部8組（6名） 中学部2組・5組（16名） 高等部11組（5名）
3展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 特別活動 保健体育 総合的な学習の時間 自立活動 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4目 標 （ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> ・競技を通して、ルールやマナーを学び、競技力を高める中で達成感を味わせ、自己肯定感を高める。 ・競技を通して人と関わる力を高め、互いに尊重し合い、協力・協働することの大切さを学ぶ。 ・パラスポーツを知り、体験することを通してパラリンピックへの興味・関心を高める。
5取組内容	<p><小学部8組>「自立活動」 （1）シットイングバレーボール 教室で、風船バレー用の風船を使って行った。人数に合わせてコートの大さを調整したり、ルールを簡略化したりして行った。</p>  <p><中学部2組・5組>「保健体育」（12月から3学期にかけて実施） （1）シットイングバレーボール 保健体育の授業でシットイングバレーに取り組んだ。バレーボールを使うと難しい生徒が多いため、風船バレー用の風船を使用して行った。</p>



<高等部 11 組> 「特別活動」

(1) ゴールボール

学級の実践としてゴールボールを行った。ゴールボールを初めてする生徒が大半で、ゴールボールの特性を学ぶことから始めた。アイマスクを使用して、視覚をなくした状態でボールを扱う練習も行った。



6 主な成果	<p>今年度は、これまで実践の少なかったシットングバレー、ゴールボールを積極的に教材に取り入れるようにした。</p> <p>シットングバレーやゴールボールを知る機会になり、実際に体験することで競技の特性に気づくことができた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>様々な実態の生徒がいるため、みんなで一緒に取り組めるようにルールを簡略化した。シットングバレーでは、バレーボールではなく風船バレー用の風船を使用することで、落下までの時間に移動がしやすくなったり、音によってボールの位置がつかみやすくなったりといった利点があった。</p>
8 主な課題等	<p>限られた学部・学級での実践になってしまった。来年度以降も引き続き取り組み、シットングバレーやゴールボールを年間計画等に組み入れられるように全教員に対し理解啓発を行い、事業の充実を図りたい。</p>
9 来年度以降の実践予定	<p>シットングバレーやゴールボールの普及・定着に努めていく。</p> <p>校内だけでなく、「あすチャレ！ジュニアアカデミー」などの事業を活用し、様々な体験的活動を新規に企画する。</p>